

令和2年度実施事業

協働事業報告書

目次

- ①「アクティブ防災」で作る、手をつなぎたくなる街平塚の
防災力強化プロジェクト P1
- ②図書館におけるボランティア体験を通じた不登校・ひきこもり
改善・自立支援事業 P9
- ③平塚市食品ロス削減事業並びに相対的貧困解消事業 P17
- ④平塚市生物多様性保全推進事業 P26
- ⑤着地型観光プログラムの開発とイベントの周知及び実施 P34

平塚市

令和2年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長

団体名	特定非営利活動法人 MAMA-PLUG
団体代表者	荻野 潔
事業担当課名	災害対策課
事業担当課長	古田 勝明

令和2年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	「アクティブ防災」で作る、手をつなぎたくなる街平塚の防災力強化プロジェクト		
事業開始年度	平成31年～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	390,750 円	内 訳	市の支出 390,750 円 ----- 団体の支出等 0 円
事業の概要	いざというときに防災弱者となり得る妊婦、乳幼児連れ、子ども、そして子供の保護者等を対象に、過去の被災体験談やワークショップを通し、災害時の「生き延びる力」と「スムーズにコミュニケーションを図る力」を身につけるための講座を行う。また継続的な防災教育を可能にするため、子どもや保護者に関わりの深い保育士や看護専門職（保健師・栄養士等）への講座も行い、保護者への継続的な防災アドバイスの支援を可能にする。		
具体的な実施内容	<p>① 9/16 「プレママ～2歳までのお子さまを持つ保護者向け防災セミナー（知識編）」 参加者：大人12名（内、父親1名）、子ども12名、計11組24名</p> <p>② 9/29 「プレママ～2歳までのお子さまを持つ保護者向け防災セミナー（実践編）」 参加者：大人10名（内、父親1名）、子ども9名、計9組19名</p> <p>③ 10/13 「子連れ孫連れ防災セミナー」 参加者：大人2名、子ども2名、計2組4名</p> <p>④ 10/7 「防災ピクニック①」 参加者：大人10名（内、祖母1名）、子ども7名、計9組17名</p> <p>⑤ 11/7 「防災ピクニック②」 参加者：大人17名（内、父親5名、祖父母5名）、子ども17名、計13組34名</p> <p>⑥ 12/16 「保育士向け防災セミナー」 参加者：保育士16名</p> <p>⑦ 12/22 「災害対策専門職研修」 参加者：保健師・助産師・管理栄養士・歯科衛生士・心理相談員 計20名</p>		

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以上

令和2年度実施協働事業 決算報告書

	項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
① 収 入	市の支出	560,251	560,251	0	コロナ対策で講座が3本開催できなかったため
	団体の支出	0	0	0	
	事業収入	0	0	0	
				0	
	収入合計	A 560,251	B 560,251	B-A 0	
② 支 出	人件費(会員謝金)	451,351 (451,351)	317,784 (317,784)	-133,567	コロナ対策で講座が3本開催できなかったため。 アシスタントの拘束時間が予定よりも短く済んだものがあったため。 アシスタントが予定よりも1日分少なかったため。
	報償費	25,520 (25,520)	9,240 (9,240)	-16,280	コロナ対策で講座が3本開催できなかったため。 開催した2講座でも保育士が計4名(2日×2名)の予定のところ3名の派遣になったため。
	諸経費	58,380 (58,380)	45,296 (45,296)	-13,084	コロナ対策で講座が3本開催できなかったため。
	旅費・交通費	25,000 (25,000)	18,430 (18,430)	-6,570	コロナ対策で講座が3本開催できなかったため。 講師が車でいったため交通費支給が無いものがあったため。 対面での打合せが予定よりも少なかったため。
		()	()	0	
		()	()	0	
		()	()	0	
		()	()	0	
		収入合計	C 560,251 (560,251)	D 390,750 (390,750)	D-C -169,501
③	収支決算額	B 560,251 円	- D 390,750 円	= 169,501 円	【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	特定非営利活動法人 MAMA-PLUG	<input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> 行政
事業名	「アクティブ防災」で作る、手をつなぎたくなる街平塚の防災力強化プロジェクト	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	4	事業の目的は共有できたが、コロナ禍であったため、結果として目的の達成は十分ではなかった。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	4	1年目に比べ、業務の分担はスムーズに行うことが出来た。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	コロナ禍で事業自体の変更を余儀なくされることが多かった中、対面で相談をすることもできずに進めなくてはならなかったが、メールや電話などを使いながらお互いに十分に協議をし、納得しながら進めていくことが出来た。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	お互いの考えを話し合いながら事業をより良いものにするために協力し合えた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	年間を通した、市内の子育て世帯に特化し防災を啓発する取り組みは、単独では不可能な事業であり、災害対策課と団体が協力することによって実現できた成果だった。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	3	コロナ禍であったため、10本予定していた中の7本しか講座を行うことが出来なかった。また、講座参加者の人数も密を避けるために絞らなくてはならなかったため、当初予定していた参加人数に届かなかった。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	4	サービスの提供は予定よりも少ないものの効果を出せた。しかしながらコロナ禍で講座参加者の人数を制限した結果、人数的な効果は足りない部分があった。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	5	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など参加者アンケートを見ると満足度が高く、受講者には十分な評価をいただいた。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	子育て世帯に特化した防災講座を受けることで、備えに取り組み、不安を解消することができた。
団体のメリット	市の事業として行うことで、包括的な防災対策を継続して講じることができた。また、地域防災の見識を広げることができた。
市のメリット	防災に手がつけにくい若年夫婦層に対する防災啓発活動を行うことで、市内の防災力を底上げすることが出来た。

(4) その他、課題やその改善方法など

来年度はコロナの影響にもよるが、参加人数を増やし、市民の防災力アップにさらに力を入れていきたい。また、災害対策課とさらに連携し、これまでの経験や知識を市の防災対策にいかしていきたい。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)
 休止または終了
 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
 その他 ()

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	災害対策課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	「アクティブ防災」で作る、手をつなぎたくなる街平塚の防災力強化プロジェクト	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	4	打ち合わせやメールで頻繁に情報交換を行うとともに、セミナー後の反省会、アンケート集計などにより今後の方向性や目的について共有を図った。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	4	セミナーの準備、周知、開催など、団体と災害対策課との役割分担は適正だった。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	4	セミナーを開催するにあたり会場の工夫や準備するものなど打ち合わせやメールで十分に協議を行った。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	5	相互の役割と責任を認識し、対等な立場のもとに連携して業務を実施できた。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	4	団体が持つ専門性やノウハウを活用することで、具体的な啓発を講じづらかった妊婦や主に2歳までの子どもを育てている保護者などを中心に、防災意識を向上することができた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	3	新型コロナウイルスの影響によりセミナーの開催本数を減らし、2回に分けて行う予定だったセミナーを1回にまとめた構成にすることで対応した。 また、YouTubeによる親子向け防災冊子のPR動画や防災ピクニックの様態を公開し、具体的な啓発を講じづらかった市民に対し、防災意識の向上を図った。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	4	セミナー参加者がセミナー後、家族や周りのお母さんたちに取り組みについて啓発することで、更なる波及効果があった。 また、母子向け防災冊子を各保育園への配布や乳幼児全戸訪問の際に配布し、さらに、平塚市HPでダウンロード可能にすることで、幅広い世代へ周知することができた。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。（受益者からの評価がわかる場合）	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など セミナーで集計したアンケートで「このセミナーを他の人にも勧めたい」と回答した人が多数占め、参加者の満足度は高いと思われる。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	「妊娠時」「子育て期」における、災害への対処法を学べる防災セミナーを受講することで不安を解消し、災害への備えに着手できました。
団体のメリット	本市との協働により、防災所管部署と連携した子育て世代への連続したセミナーを開催できたことに加え、子育て所管部署などはそのまま連携し、幅広く防災セミナーを実施することができました。
市のメリット	これまで多くの自治体と連携してきたママプラグの生活者としての視点を取り入れたアクティブ防災は新しく、これまで具体的な啓発を講じづらかった市民に向けた取組を進めることができました。

(4) その他、課題やその改善方法など

告知方法を広報ひらつかや各課窓口配架だけでなく、公民館や子どもが集まりそうなイベント、民間事業者、地域情報サイトなどにも情報提供していく。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（ 提案型 提案型以外） 休止または終了
 行政が単独で実施 団体が単独で実施
 その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

事業終了後も継続したものとするため、災害対策課職員に対してもママプラグのノウハウを習得させ、子どもが楽しめる要素を盛り込んだ訓練などを実施できるようにしていくことで、妊婦や主に2歳までの子どもを育てている保護者の参加者を増やしていく。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	特定非営利活動法人 MAMA-PLUG	担当課名	災害対策課
事 業 名	「アクティブ防災」で作る、手をつなぎたくなる街平塚の防災力強化プロジェクト		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

メールや電話での打ち合わせが多かったが、出来る限りコミュニケーションを図り問題なく進められた。

事業2年目のため、役割分担などもスムーズに行うことができた。

団体と市が連携し、互いのメリットを活かすことで、妊婦など防災啓発を講じづらかった市民に向けた活動を重点的に行うことができた。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

新型コロナウイルスの影響により、セミナーの回数や募集人数は減らしたが、セミナーを再構築して開催するなどし、内容自体は予定どおり実施できたので目的は達成できた。

セミナー実施回数が減ったことにより余った費用は返還した。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

妊婦や主に2歳までの子どもを育てている保護者などを対象とした防災講座の開催や親子向け防災冊子を配布することで不安を解消し、災害への備えに着手できた。

また、団体にとっては、本市との協働により防災所管部署と連携した子育て世代への連続したセミナーを開催できたことに加え、子育て所管部署などとも連携し、幅広く防災セミナーを実施することができた。

市にとっては、これまで多くの自治体と連携してきたママプラグの生活者としての視点を取り入れたアクティブ防災は新しく、これまで具体的な啓発を講じづらかった市民に向けた取組を進めることができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

保育士を依頼し、会場設営を工夫する（椅子ではなく床に座る）などして、子連れでも集中してセミナーを受けられる環境づくりができた。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（提案型 提案型以外） 休止または終了
行政が単独で実施 団体が単独で実施
その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

子連れ孫連れ向け防災セミナーでは、対象者が不明確で人が集まりにくいいため、対象者がわかりやすいセミナー名に変更する。

事業終了後も継続したものとするため、災害対策課職員に対して勉強会や研修会を実施し、ママプラグのノウハウを習得できるよう努めたい。

令和 2 年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長殿

団 体 名 特定非営利活動法人ぜんしん

団体代表者 柳川 涼司

事業担当課名 社会教育部中央図書館

事業担当課長 館長 小林 裕治

令和 2 年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	図書館におけるボランティア体験を通じた不登校・ひきこもり改善・自立支援事業		
事業開始年度	平成 31 年～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	637,262 円	内 訳	市の支出 627,880 円 ----- 団体の支出等 9,382 円
事業の概要	<p>過去 3 年間に渡り、不登校・ひきこもりに悩む親子に対し、市の青少年課と協働し、彼らの居場所を設け、相談に応じる等しながら問題の改善と自立を促す事業を行って来た。ひきこもり状態から脱し、居場所を訪れた若者が更に自信を高め、自立する為には、居場所以外のシーンで成功体験を積み重ねることが求められる。そこで、本事業では、不登校等で悩む若者が中央図書館でのボランティア体験を通して自信を培い、社会復帰への意欲を高めることで、復学・進学・就労といった自立を促すことを目的に定めた。</p>		
具体的な実施内容	<p>本年度は以下の通り、新型コロナウイルス感染症対策を施し、主として本の修繕作業のボランティア体験を実施した。また、フローア作業の体験も行った。</p> <p>① 5 月 1 日 図書館での作業内容の更新・追加ヒアリングの実施 (1 回) 追加する作業内容の選定、「体験者用作業マニュアル」の更新、団体の「スタッフ用作業マニュアル」の作成に向け、市の奉仕スタッフと確認等を行う。</p> <p>② 6 月～3 月 当事者が利用する「体験者用作業マニュアル」の更新と団体の「スタッフ用作業マニュアル」等の作成に向けた編集会議を開催 (9 回)</p> <p>③ 4 月～3 月 マニュアル・アンケート・打合せ等の書類作成 (31 回)</p> <p>④ 6 月～2 月 ボランティア体験をするスタッフの研修 (全 5 回/16 名参加) 「体験者用作業マニュアル」等を確認しながら研修を開く [On-JT 2 回]。本年度は市の奉仕スタッフの助けが不要になるレベルを目指した。また、「スタッフ用作業マニュアル」の確立とその有効性を確認する等の目的で団体スタッフによるボランティア体験日当日を想定したロールプレイも実施 [Off-JT 3 回]</p> <p>⑤ 6 月～3 月 ボランティア体験の本格実施 (全 5 回/当事者 17 名参加) 当事者は、「体験者用マニュアル」を確認する等し、ボランティア体験を受けた(本の修繕体験を 4 回、書架整理を 1 回)。※別紙「アンケート」等参照</p> <p>⑥ 3 月 22, 25 日 ボランティア体験アンケート集計、振り返り会議の実施 (2 回) 各作業マニュアルのアップデート、当事者の達成度確認等を行う</p>		

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

令和2年度実施協働事業 決算報告書

項目		予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
① 収 入	市の支出	627,880	627,880	0	
	団体の支出	4,300	9,382	5,082	団体の正会員費等から充当
	事業収入	0	0	0	参加費は徴収しない
				0	
	収入合計	A 632,180	B 637,262	B-A 5,082	
② 支 出	項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
	謝金 (事業責任者)	234,000 (234,000)	288,000 (288,000)	54,000	※別紙、「人件費明細書」参照 ※増額理由：マニュアル作成や体験者成長指標等の作成が増えた為
	謝金 (ボランティア)	300,000 (300,000)	284,000 (284,000)	-16,000	※別紙、「人件費明細書」参照 ※減額理由：当初予定していたスタッフの本業が忙しくなり、参加できなかった為
	事務用品費 (消耗品費)	26,300 (22,000)	31,292 (30,710)	4,992	プリンターインク代：14,103円、事務用品(クリアファイル、コピー用紙等)：13,174円、コロナ対策用品：4,015円 ※増加理由：感染症対策グッズを購入した為
	旅費交通費	56,880 (56,880)	12,380 (12,380)	-44,500	240円×2×4回(藤沢⇄平塚)、200円×2×13回(辻堂⇄平塚)、190円×2×7回(大磯⇄平塚)、駐車場代：2,600円 ※減額理由：想定していたスタッフが変更となった為
	保険料	15,000 (15,000)	12,790 (12,790)	-2,210	3,950円×1回、2,040円×3回、2,720円×1回 ※減額理由：記名方式契約によりコスト削減を図った為
	通信運搬費	0 (0)	8,800 (0)	8,800	リモートツール「Zoom」月額利用料：2,200円×4カ月 ※増額理由：感染症対策によりリモート会議を採用した為
	収入合計	C 632,180 (627,880)	D 637,262 (627,880)	D-C 5,082	
③ 収支決算額	B 637,262 円	- D 637,262 円	=	0 円	【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	特定非営利活動法人ぜんしん	<input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> 行政
事業名	図書館におけるボランティア体験を通じた不登校・ひきこもり改善・自立支援事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	不登校やひきこもりに悩む当事者の特性等を踏まえながらボランティア体験を通して彼らが自信を培い、社会復帰への意欲を高めることで、復学・進学・就労といった自立を促すという目的を見失うことなく、情報を共有しながら、事業を展開することが出来た。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	5	本年度も当初、掲げた計画通り、団体と市による適正な役割分担のもとに事業は実施された。 各種の作業マニュアルは団体が中心となり作成し、また、ボランティア体験作業の準備やご指導等については、市の職員様において丁寧に対応いただいた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	コロナ情勢を踏まえ、事前の準備段階からメール等で団体スタッフと市担当職員様との間で希望する作業内容等を双方で確認した上で事業に臨むことが出来た。ボランティア研修等の実施後も双方で振り返りの時間を設け、今後の事業展開で要する改善点等の情報共有を図ることが出来た。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	団体と市は、互いに対等で双方の立場を尊重し、良好な協力関係を維持しながら事業を実施できた。 双方が抱える問題点等については、互いが対等な立場で、解決策を考え、事業に反映することが出来た。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	団体単独では本事業の成立は困難を極めたと思われるが、協働事業として事業を実施できたことにより、信頼性の高い市の公共施設をお借りでき、更に市の職員様から体験作業のご指導等を受けることが可能になった。参加者が安心して参加できる等の効果が得られている。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	「成果目標値」は、全ての項目で達成することが出来た。特にボランティア体験の実施においては、目標を上回る17名の方々に参加いただけた。また、各マニュアルは完成し、更にスタッフ研修では、克服すべき作業の確認や体験日のロープレ等も行い、目的は達成されていると見ている。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	5	本の修繕等において作業内容の把握が難しいものもあるが、団体スタッフは理解を深めながらスタッフ用作業マニュアル等を完成させる為、多くの時間を割いた。コロナ禍にあり制約はあったものの想定した予算内でマニュアルが完成し、更に体験日には目標を上回る方々が参加したこともあり、経費に見合うサービスは提供できたと考えている。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など アンケート結果による〈満足度(10段階申告)〉は、平均値で6.86点と判明した為、体験者から評価を頂けたと受け止めている。次年度はフローア作業の実施回数を増やすほか、体験内容を増強しながら更に〈満足度〉を高めていきたい。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	<ul style="list-style-type: none"> 元当事者サポーターらが作業等に寄り添う為、手厚い支援が得られた 参加者の状況を考慮した作業で、自立意欲を高めることに寄与した
団体のメリット	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施に要する「ボランティア体験スペース」を確保できた 市の施設にて関連する職員と協働することで団体の信頼度が高まった 拡充が求められる就労支援メニューを追加することが可能になった
市のメリット	<ul style="list-style-type: none"> 職員がこなせず、保留となっていた本の修繕・書架整理等を行うことができた 団体のノウハウを活用し、体験者を受け入れる為の各種マニュアル等が完成した 市内諸機関で解決策を得られない相談者へ支援の手を差し伸べることができた

(4) その他、課題やその改善方法など

<p>今後もボランティア体験等を実施するにあたって以下の対応策を検討している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 主として団体の課題：①当事者への助言がしっかりとできるように本の修繕等の作業内容の理解を更に深める(書架整理ほかの作業経験を積む等) ②市職員様へ「参加人数や作業内容等」を事前に連絡する 主として市の課題：団体へボランティア体験当日の作業内容等の回答を事前にいただく

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)
 休止または終了
 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
 その他 (市担当課様と団体で協議し、適宜、体験者を受け入れて頂きながら実施したい)

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

<ul style="list-style-type: none"> 市担当職員と連携し、本事業を継続する中で、各種マニュアル等のアップデートを行いながら、成果物となるマニュアル等を市や団体がそれぞれの事業で有効活用していく。 協働事業終了後にも本事業のプログラムを継続させていただき、当団体の居場所を利用する若者が段階的に自立できるような機構を構築する。財源確保としては受益者負担も検討する
--

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	中央図書館	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	図書館におけるボランティア体験を通じた 不登校・ひきこもり改善・自立支援事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	不登校やひきこもり当事者の自立支援と、図書館の図書 の整備（本の修繕及び書架の整理）を両立させるため、団 体スタッフに対して作業の研修や図書館職員との打ち合わ せを重ねて、目的の共有は図れた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	図書館からの作業要望を踏まえ、団体スタッフが参加者 で行える範囲を見極めたうえで、実際に体験した内容をマ ニュアルに落とし込んだ。お互いが持つ情報を出し合い共 有しながら事業を行えた。
③「十分に協議」を行っ ましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	5	コロナ禍で制限がある中、図書館と団体間での効率的な 打ち合わせや、実際に参加者に作業体験をしてもらうため の安全面など、密にならないよう配慮しながら、十分に協 議が行えた。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	5	図書館ができること、又は団体ができることに対する理 解度が双方で深まり、積極的なアイデアを出し合いながら、 打ち合わせが行えた。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	5	ボランティア参加者により、日々滞りがちな図書の整備 が行えたこと、及び参加者の率直な意見も反映して誰もが 図書館の仕事の一端を理解できるマニュアルができた。図 書館として初の試みであったが、市民参加の新しいかたち を団体と一緒につくることができた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	作業マニュアルの補足・修正を行うことで、よりわかりやすいマニュアルを作成できた。また、コロナ禍ではあったが、ボランティア体験を中止することなく安全面を考慮しつつ実施できた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	5	ボランティア体験者については、コロナ禍で想定していた人数より多くの方に参加いただけた。複数回参加される方もおり、満足度の高いプログラムを提供できた。そこでの体験者からの意見を取り入れ、誰にでもわかりやすく作業が行えるマニュアルを作成できた。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 体験者からは、貴重な体験ができた、難しかったが楽しかった等、満足感や達成感を得られたと概ね好評であったが、コロナ禍で体験時間を短縮したため、もう少し作業時間が欲しいとの要望もあり、今後の課題となる。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり当事者が自立支援を受けることができた ・図書館整備が行われることで図書館利用者の利便性が向上した
団体のメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館のボランティア作業、作業スペースを得ることができた ・自立支援事業に新しい就労支援メニューを追加することができた
市のメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり当事者の自立支援を行う専門的な団体と連携できた ・図書館整備(本の修繕・書架整理)を行うことができた

(4) その他、課題やその改善方法など

- ・団体が来館しての打ち合わせやボランティア体験を行う際は、事前連絡を確実に going していくこと(どの作業を希望するか、参加人数は何人か等)
- ・窓口委託業者との調整(協働事業目的の共有、破損資料、書架整理の分担など)を行う

(5) 今後の具体的な展開

今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)

行政が単独で実施

その他 ()

休止または終了

団体が単独で実施

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

- ・作業用マニュアルを体験者の感想を踏まえ更新しつつ、新たに作成予定の作業説明動画等の成果物を、他の図書館事業を行う際にも活用していく
- ・協働事業終了後も図書館整備ボランティアが継続して行われる体制を構築し発展させていきたい

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団体名	特定非営利活動法人 ぜんしん	担当課名	社会教育部中央図書館
事業名	図書館におけるボランティア体験を通じた不登校・ひきこもり改善・自立支援事業		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

本年度も事業実施に向け、事前準備や事後の振り返り等において市の担当職員と団体スタッフが、しっかりと意見交換を行った。双方で「十分な協議」を重ね、「目的共有」、「役割分担」について、共通の認識を持ちながら事業に取り組むことができた。

市の担当職員と団体スタッフは、予定していた役割分担のもとに互いに対等で双方の立場を尊重し、良好な協力関係を維持しながら事業を実施できた。特に、ボランティア研修とその後のミーティング内容を次回の研修に反映する等、互いが「対等な立場」で快く事業を展開することができた。

「相互評価や波及効果」については、市と団体が互いの強みを活用できたことに加え、新たな支援メニューとして市民にアピールできたこと等から今後への「波及効果」は期待できると考えている。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

コロナ禍にありながら「目的・目標の達成」については、事業提案書の〈成果目標値〉に定めた各種「作業マニュアル」の完成、スタッフ研修、ボランティア体験の本格実施等が滞りなく、想定通りに進み、各目標値を達成できたことから目的・目標は達成されたと考えている。

「費用対効果」については、受益対象者と図書館双方の立場に配慮した各種「作業マニュアル」を慎重に作成する等し、計画した予算範囲内で事業を実施した。その結果、事前に想定していた参加者以上の参加があったことに加え、別紙の「アンケート回答」にある参加者のコメントからも満足度は高いことから、費用に見合うサービスを提供できたと見ている。

「受益者サービス」については、別紙アンケートの通り、参加者の満足度が高く、本事業に対して「細かい作業をする機会があまりないので、貴重な経験ができました」、「…難しい本(割れ)の修繕が出来て楽しかった…」等の声もあり、2年目のボランティア体験としては、評価をいただけたと受け止めている。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

「市民のメリット」については、手厚い支援を受けながら本の修繕・書架整理を体験することができた。本年も作業体験を通して自立意欲を高めた参加者も現れている。更に、図書館整備として保留となっていた本の修繕等が行われたことで、図書館利用者の利便性が向上した。

「団体のメリット」としては、ボランティア体験会場を確保できたことに加え、拡充が求められている就労支援メニューを追加することが可能になったことは大きなメリットといえる。更に、協働事業として図書館職員と協働することで、団体の信頼度が高まり、当該事業以外の支援活動に広がりを持つようになっている。

「市のメリット」については、図書館整備(本の修繕・書架整理)を行うことができた。また、ひきこもり当事者の自立支援を行う専門的な団体と連携し、団体のノウハウを活用した不登校等の当事者を受け入れる為の各種のマニュアルを完成させたことで、市内諸機関で解決策を得られずにいる当事者親子へ支援の手を差し伸べることができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

今後の本格的にボランティア体験を実施するにあたって以下の対応策を検討している。

- ・ 団体と市双方の課題：団体は、「打合せ内容を踏まえた資料の確認依頼ならびに体験当日の参加人数等について事前に市へ連絡をする。
市は、打合せや体験当日の内容等の回答を事前に団体へ返答する。
- ・ 主として団体の課題：当事者への助言がしっかりとできるように本の修繕等の作業内容の理解を更に深める(書架整理とリクエスト本探しの経験を積む等)。
- ・ 主として市の課題：窓口委託業者との調整(協働事業目的の共有や役割分担等)を行う。また令和4年度に向けてボランティア体験者の受け入れ方について検討する

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (提案型 提案型以外) 休止または終了
- 行政が単独で実施 団体が単独で実施
- その他 (市担当課様と団体で協議し、適宜、体験者を受け入れて頂きながら実施したい)

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

- ・ 市担当職員と連携し、本事業を継続する中で、体験者ならびにスタッフ用作業マニュアル等のアップデートや新たに作成する動画ツール等の成果物を市や団体がそれぞれの事業で有効活用していく。
- ・ 協働事業終了後にも当該事業のプログラムを継続させていただき当団体の居場所を利用する若者が段階的に自立できるような仕組みを引き続き協議し、構築する。
- ・ 協働事業終了後の財源確保としては、当該事業を加えた一連の支援プログラムの利用者から負担をいただくことを検討する。
- ・ 協働事業終了後に図書活動に詳しい市民団体等と連携し、新たな活動の可能性も探りたい。

令和2年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長

団 体 名 NPO 法人フードバンクひらつか

団体代表者 大関めぐみ

事業担当課名 環境政策課

事業担当課長 五島 秀和

令和2年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	平塚市食品ロス削減事業並びに相対的貧困解消事業		
事業開始年度	令和2年度	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	4,821,815 円	内 訳	市の支出 4,821,815 円 ----- 団体の支出等 0 円
事業の概要	食品関連事業者は大量に同じ食品を在庫として所有している企業を対象に、その在庫が廃棄になる際、その食品をフードロス削減目的としてFBに寄付して頂くよう促していきます。具体的には製造業、加工業、卸売業が主になります。加えて、従業員向けの売店や小売店なども対象としていきます。その食品は食品関連事業者がWEBアプリを利用して廃棄食品の登録を行い、主にFBが食品関連事業者へ回収に伺い、合意書、契約書に基づきFBの所有物としてWEBアプリでの管理、FB利用者への無償配布を行います。それにより相対的貧困の解消に寄与していきます。		
具体的な実施内容	基本活動 週3日 大関 岡田 久松 事務(波多野 薮下 林 山田) 打合せ 営業訪問 営業電話 資料作成 引き取り配達業務 メディア対応 4/1 カンフレット湘南工場 事業案内 5/22 タイトフジテック 廃棄物の情報収集 8/4 平塚市役所 打合わせ 10/2 株式会社 dip 事業案内 10/12 古木家 中華料理店 食材廃棄相談 10/29 株式会社不二家 事業案内 11/5 たまや 事業案内 11/10 麻生製麺 事業案内 11/13 ヤマザキデリカ事業案内 11/20 ウェルシア 事業案内 11/24 ららぽーとひらつか 事業案内 12/18 梅原商事 冷蔵庫活用 事業案内 1/13 東海大学湘南キャンパス 事業案内 1/28 守山乳業 事業案内 2/3 東洋水産 事業案内		
実施年月日、実施内容、参加者等をご記入ください。			

	2/12 ドンキホーテ本社 事業案内
	2/18 JR 東日本 事業案内
	2/22 ピックルスコーポレーション 事業案内
	3/3 リテールシステムサービス 事業案内

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

令和2年度実施協働事業 決算報告書

項目		予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
① 収 入	市の支出	4,958,507	4,958,507	0	
	団体の支出	0	0	0	
	事業収入	0	0	0	
				0	
	収入合計	A 4,958,507	B 4,958,507	B-A 0	
② 支 出	項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
	人件費	2,873,507 (2,873,507)	2,682,467 (2,682,467)	-191,040	序盤の活動がコロナの影響で制限されてしまったため
	交通費	174,000 (174,000)	228,748 (228,748)	54,748	予定していた近隣にお住いの出勤者が退職したため
	通信費	21,000 (21,000)	21,000 (21,000)	0	1750円×12ヵ月 通信関連費
	広告宣伝費	90,000 (90,000)	90,000 (90,000)	0	ホームページ内協働事業に関するページの作成
	外注費	1,800,000 (1,800,000)	1,799,600 (1,799,600)	-400	アクアリーフアプリ開発関連費
		()	()	0	
		()	()	0	
		()	()	0	
	収入合計	C 4,958,507 (4,958,507)	D 4,821,815 (4,821,815)	D-C -136,692	
③ 収支決算額	B 4,958,507 円	- D 4,821,815 円	=	136,692 円	【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	NPO 法人フードバンクひらつか	<input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> 行政
事業名	食品ロス削減事業並びに相対的貧困解消事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	フードバンク活動を安定させ、利用者の方々への供給が止まることの無いよう、担当課とともに目的を共有できております。廃棄物の削減効果も、今後の企業への訪問を増やし理解して下さる企業を増やしていく所存です。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	4	アプリ開発の際の詳細な打ち合わせと、企業訪問時の同行等、協働して実行することができました。双方の強みを活かした分担作業に発展できるよう、協働をさらに強めていきます。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	4	協議を行いましたし、メール等で進捗も確認しあいましたが、コロナの影響もあり対面での機会が少なく、顔色や声色の微細な変化をくみ取るに至らず、協議という点では課題はございます。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	4	どちらが上ということなく活動できました。立場の違いを尊重するにそのためには、さらに互いを理解し、報告しあいながら進めていくことの大切さを感じました。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	4	平塚市との協働事業という点は、企業さまからの理解を得やすいことは実感としてございました。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	最大の目的であるアプリの開発については若干の遅れはありましたが、目標通りの結果となりました。企業への訪問は件数、成果ともにコロナの影響で大幅に遅れています。宣伝効果に関してはメディアが取り上げてくれたため達成できたと思います。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	5	フードバンクを利用したい困窮者を発掘するという点では、コロナ、メディアの影響もあり、月 100 名程度から月 400 名ほどまで大幅な利用増をして頂いています。企業からの提供品を獲得できれば食品ロスと貧困の解消に繋がる土台が出来上がってきました。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。（受益者からの評価がわかる場合）	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 受益者、特に市民の方からは本当に多くの感謝と問い合わせを頂戴しております。もう一方の受益者である企業にもこの事業をご理解いただき協力を取り付けることができれば、成果が見えてきております。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	このアプリ開発に関するメディアの発信のおかげで平塚市内にフードバンクがあることが少し知れ渡ってまいりました。その甲斐あって、我々の支援に手を伸ばせる方が明確に増えて参りました。
団体のメリット	利用者が増えることで非常に多くのボランティアさんが必要になりますが、人件費を確保できることで安定的な人員の確保ができております。また、企業からの食品の寄贈もわずかながらに増え始めており、今後の営業活動でさらに安定した食品の供給が可能になります。
市のメリット	SDGs の取り組みの一例として平塚市の取り組みを紹介できる。地元企業に市の取り組みに協力いただき、一体感を持って取り組める。

(4) その他、課題やその改善方法など

食品の寄贈が増えつつあるだけで、現状の置き場がパンクしてきております。実質現段階ではこれ以上食品の寄贈が増えると、置き場がない状態です。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（提案型 提案型以外）
 休止または終了
 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
 その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

市と協働で事業を行っていることをアピールする機会は営業で一番効果が見込まれます。今後のコロナの動向を見ながら可能な限り進めて参ります。その結果として、自主財源の確保につながるというシステムになっておりますので、成果を求めて活動していきます。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	環境政策課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	食品ロス削減事業並びに相対的貧困解消事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	4	標記事業の目的を共有し、協働して取り組みました。新型コロナウイルスの影響があり対面で連絡が取れない期間も、目的を共有していたため、事業を進めることができました。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	4	適正に役割分担を行いました。より分担、協働できるよう、密に連絡をとりながら進めていきたいと考えます。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	WEBシステムの開発等にあたり、十分に連絡、協議をしながら進めました。新型コロナウイルスの影響についても双方協議のうえ進めました。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4	対等な立場を基本としつつも、フードバンクひらつかを前面に立てながら必要なサポートは随時行うよう支援に努めてきました。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	4	WEBシステムの構築は、団体にとって幅広い業種から多様な食品等の寄付を募りやすくなるだけでなく、市の食品ロス対策となることで事業の信頼性が高まり、事業者に対するPR活動にも有効性を発揮しました。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	令和2年12月には、WEBシステムの構築（完成）をプレス発表することができました。構築したWEBシステムは、食品製造業、加工業、卸売業などからフードバンクひらつかへの未使用食品の寄付を促進させることに繋がる予定です。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	3	令和2年度は3か年の事業期間の初年であり、WEBシステムの本格稼働は令和3年度以降が中心となります。費用に対しての効果を生んでいくのはこれからとなりますが、期待できると考えています。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。（受益者からの評価がわかる場合）	3	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 寄付いただく企業に対しては②のとおりですが、事業がメディアに取り上げられたことで、提供先の市民に周知が進みました。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広く市民に対する食品ロス削減の取り組みへの理解促進や意識改善 ・ フードバンクひらつかが実施する食の支援を必要とする生活困窮世帯等への支援
団体のメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安定的な未使用食品の確保への期待 ・ 市との協働であることによる信頼感の獲得 ・ 使用料徴収による、団体の継続安定性の向上（令和3年度以降）
市のメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物の削減への普及啓発と効果 ・ フードバンクひらつかが実施するフードパントリーを通じた生活困窮世帯等への未使用食品の提供

(4) その他、課題やその改善方法など

- ・ 新型コロナウイルスの影響により、フードバンクひらつかの想定以上に未使用食品が集まり、追加の倉庫確保が必要となっています。
- ・ 集めた食品をイベントで提供する際には、コロナ以前と異なり感染防止策を取りながらになるため、かかる負担が増大しています。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（ 提案型 提案型以外）
 休止または終了
 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
 その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

企業との契約を進めることで使用料の確保と団体の活動安定に繋がりたいと考えています。企業からの寄付が多くなることは、食品ロスと廃棄物の削減を意味するため、企業訪問に同行するなどして後方支援をしたいと考えています。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	NPO 法人フードバンクひらつか	担当課名	環境政策課
事 業 名	食品ロス削減事業並びに相対的貧困解消事業		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

- ・メールや電話でのやり取りが多くなりましたが、目的を共有できていたため、大きな齟齬を生むことなく進めることができました。一方で、直接顔を合わせないことによる微かな行き違いもあり、令和3年度は新型コロナウイルスの状況を見ながら対面機会を増やしたいと双方で話し合いました。
- ・双方の理解をさらに深め、都度役割を見直しながら協働していきたいと考えています。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

- ・令和2年度最大の目標だった、WEBシステムの構築及びプレスリリースができました。当該システムがメディアに取り上げられたことから、フードバンクひらつかの活動を周知する機会にもなり、多くの市民の方から問い合わせがありました。令和3年度から、WEBシステムの営業活動が本格化していきますので、事業の目的や企業側のメリットを伝えながら促進していきたいと考えています。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

- ・これまでの継続的な活動に加え、WEBシステムがメディアで取り上げられたことにより、フードバンクひらつかの取り組みへの周知ができました。これにより、支援が広がっています。
- ・未使用食品等の寄付が増えることは、食品ロスと廃棄物の削減に繋がることになり、環境の側面からも意味があることと受け止めています。
- ・令和3年度からは営業活動を本格化し、多くの企業からの寄付を受けていきたいと考えています。この際に使用料をいただくことで、団体の安定的な事業の継続が確保されていきます。

(4) その他、課題やその改善方法など

- ・企業が未使用食品を寄付し、税制上の優遇を受けるためには一つ一つの食品が誰に寄付されたかなどの記録作成が義務付けられています。この作業を簡易にするのがWEBシステムであり、そのための使用料をいただきますが、他の団体には使用料を納めることなく寄付をしているため、使用料がかかることがデメリットと受け止められています。制度が成熟していけば、使用料を払ってでもフードバンクひらつかに預けたい企業が広がっていくことと思われませんが、現時点では企業への説明を粘り強くしていき、コンプライアンスの面からも適正に税制優遇を受けるよう伝えていきたいと考えます。
- ・新型コロナウイルスの影響により、通常のフードバンクひらつかの活動に対して、企業からの寄付が想定より増えたことにより、倉庫を圧迫している状況があります。事業と並行してスペースの確保に取り組んでいきたいと考えます。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（提案型 提案型以外） 休止または終了
行政が単独で実施 団体が単独で実施
その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

- ・令和3年度は企業への訪問や営業活動を通してWEBシステムの促進をしていきたいと考えています。市と訪問を共にすることで、市の持つ信頼性や（4）で記載した税制優遇にかかるコンプライアンスについて訴求していく予定です。
- ・団体は上記活動により契約、使用料を増やしていくことで安定的な事業となるよう財源確保を進めていきたいと考えています。

令和2年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長

団体名	ひらつか生物多様性推進協議会
団体代表者	荒井 啓三
事業担当課名	環境保全課
事業担当課長	二宮 悟之

令和2年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	平塚市生物多様性保全推進事業		
事業開始年度	令和元年～	提案型	<input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	3,826,915 円	市の支出	市の支出 3,826,915 円 ----- 団体の支出等 0 円
事業の概要	<p>市内の里山や河川などで活動し、生き物に造詣のある市民や市民団体、市内企業などを中心に学識経験者を加えて組織した団体と環境保全課が協力し、令和元年度から3年度までの3年間で、市内の生物の生息状況を調査、分析し、自然環境評価書を作成します。</p> <p>令和2年度は、「水域」調査として、相模川（寒川取水堰周辺と馬入水辺の楽校周辺）、金目川、海岸の4カ所で生物調査を実施しました。また、植物班及び鳥類、魚類・甲殻類班は、それぞれの生きものの生態やこれまでの調査活動の実績に応じて設定したオプション地点でも調査を行いました。</p> <p>自然観察会は新型コロナウイルス感染症の影響や天候により中止となりましたが、11月にパネル展を実施し、令和元年度の調査結果をお知らせしました。</p>		
具体的な実施内容	<p>・生物調査：植物、昆虫、魚類・甲殻類、両生・爬虫類、鳥類、哺乳類の6班に分かれ、季節ごとに対象エリアを調査しました。</p> <p>【対象エリア】①相模川（寒川取水堰周辺）②相模川（馬入水辺の楽校周辺）③金目川と周辺の田んぼ④海岸。その他、鳥類班・魚類班・植物班がオプション地点調査として独自に選定したエリアを調査しました。調査時間は延べ1433時間となりました。</p> <p>・啓発事業：【ひらつか生物多様性推進協議会パネル展】11月2日（月）～6日（金）。市役所本館1階多目的スペース。令和元年度の調査結果をエリアごとにまとめ、展示しました。</p> <p>【生物多様性パネルディスカッション in Think Eco ひらつか（オンライン開催）】12月17日（木）午後4時30分～6時。横浜ゴム平塚製造所。協議会の荒井会長がパネリストとして参加し、協議会の活動を紹介しました。</p> <p>【環境ファンクラブパネル展】3月22日（月）～26日（金）市役所本館1階多目的スペース。</p>		

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以上

令和2年度実施協働事業 決算報告書

	項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)	
① 収 入	市の支出	3,960,000	3,960,000	0	負担金 3,960,000円	
	団体の支出	0	0	0		
	事業収入	0	28	28	貯金利息	
				0		
	収入合計	A 3,960,000	B 3,960,028	B-A 28		
② 支 出	項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)	
	調査人件費	1,200,000 (1,200,000)	1,071,050 (1,071,050)	-128,950	調査人件費 従事者延べ53人・1433時間 1,071,050円 ※60,514円を消耗品費に、38,741円を印刷製本費に充当	
	消耗品費	20,000 (20,000)	80,514 (80,514)	60,514	消毒用アルコール・除菌ウェットティッシュ・防虫スプレー・名札ケース・展示用物品等 60,514円	
	事務費	20,000 (20,000)	3,850 (3,850)	-16,150	振込手数料・金種指定手数料 3,850円	
	印刷製本費	80,000 (80,000)	118,741 (118,741)	38,741	令和元年度調査結果報告書 (概要版) 600冊 118,741円	
	保険料	70,000 (70,000)	66,760 (66,760)	-3,240	調査活動保険料 60,760円 イベント保険料 6,000円	
	分析・評価委託費	2,500,000 (2,500,000)	2,486,000 (2,486,000)	-14,000	分析・評価委託費 2,486,000円	
	啓発事業関係費	70,000 (70,000)	0 (0)	-70,000	新型コロナウイルス感染症や天候の影響により中止	
		()	()	0		
収入合計	C 3,960,000 (3,960,000)	D 3,826,915 (3,826,915)	D-C -133,085			
③	収支決算額	B 3,960,028 円	- D 3,826,915 円	=	133,113 円	【備考】残額は負担金に戻入

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	ひらつか生物多様性推進協議会	■団体 □行政
事業名	平塚市生物多様性保全推進事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	お互いが「生物多様性を保全し、後世に伝えるという」共通の目的に沿って事業を実施できた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	団体は各グループの専門性・経験を活かして調査や啓発事業を実施し、担当課は調査がスムーズに行えるように、各グループ、事業者や関係機関との調整を支援した。その結果、団体は調査資料の作成、調査報告の提出や確認を遅滞なく行えた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	調査対象エリアや進め方などを決定する場合には、団体と担当課が出席する会議を開き、十分に討議を行った。調査途中にも中間検討会を開き、常に相談しながら事業を進めた。新型コロナの影響で会議はオンライン会議を中心に実施した。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	お互いの立場を理解し、尊重しながら、対等な立場で事業を進めることができた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	お互いの持っているノウハウやスキルを出し合い、協力することで、生物調査が円滑に行えた。また、担当課による市ウェブへの調査報告パンフレットの掲載、市庁舎多目的広場へのパネル展示など生物多様性保全の重要性を周知することができた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	事業2年目の計画通り、「水域」として、相模川、金目川、海浜、水田の調査が実施できた。 啓発事業として、観察会は2回計画したが、新型コロナの影響で実施できなかった。令和1年度の調査概略パンフレットができ、パネル展(2回)で配布できた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	5	河川・海浜は陸域に比べ、日除けのない地域での調査で特に夏場は長時間の調査が難しかったり、新型コロナウイルス感染症の影響で調査自体を実施できない期間もあつたりと効率が上がらない時期もあつたが、予算内で効果を上げることができた。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など パネル展で配布したパンフレットは好評であった。 横浜ゴム製造所主催のイベントに参加し、Web配信され、生物多様性保全のPRができた。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	パネル展で配布したパンフレットは好評であった。 観察会は募集後中止になったが、応募人員は募集人員を超過していた。
団体のメリット	メンバー団体は調査を進める中で相互理解や関係が深まった。調査時の情報は他団体と共有し、不足情報を補完しあつた。
市のメリット	市民団体での調査は今までの経験や知識が多く含まれ、アクションプラン施行時には基盤として大きな力となる。

(4) その他、課題やその改善方法など

新型コロナウイルス感染防止のためオンライン会議が主となったが、感染防止に注意して会議室の会議でさらに協議会活動を活発にしたい。

(5) 今後の具体的な展開

今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)

行政が単独で実施

その他 ()

休止または終了

団体が単独で実施

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

協働事業は令和3年度で終了するが、アクションプランへは、生物多様性保全を進める(PDCA)ためには継続的な調査が必要であり、また調査活動を継続するためには後継者の育成が必要であり、このことを含めて協力を続けていきたい。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	環境部 環境保全課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	平塚市生物多様性保全推進事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

（1）協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	水域の調査として市内四つのエリアで全6班による総合調査を実施することができた。また、班独自のオプション調査エリアも設定するなど、生物多様性を後世へつなげるといった目的を共有しながら事業を進めることができた。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	4	市内の自然環境や生物に造詣の深い団体は調査の実施や結果の報告、啓発事業の発案を担い、市はその支援や団体のメンバー間及び関係機関との連絡調整を担うという適正な役割分担ができた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	協働事業初年の令和元年度は4回の開催だった運営委員会は、回数を増やし7回開催、意見交換の場の確保に努めた。日常的にはメールで情報共有し、常に相談しながら事業を進めることができたが、個々のメンバーと市が電話で協議する場合もあり、その内容を全員で正確に共有することの難しさを感じ、今後の課題と感じた。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4	団体と担当課で対等な立場であることを念頭に置き、調査や啓発事業などを実施・計画する際には、互いの意見を尊重し、事業を実施することができた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	団体の持つ、生物に関する知識や調査のノウハウを発揮してもらうことで、広範囲にわたる調査が可能となった。また、成果物として作成した調査結果を紹介する冊子の市内公共施設への配架や市ウェブへの掲載等、担当課も役割分担し、協力することができた。

評価の流れ **A : 「自己」評価シート** → B : 「相互」評価シート → C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	新型コロナウイルス感染症の影響により、調査活動が実施できない期間があったものの、広範囲に渡るエリアを調査することができ、市生物多様性アクションプラン策定に向けた基礎データを収集することができた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	4	メンバーが季節ごとに計画的かつ適正に調査を実施したため、予算の範囲内で、効果を上げることができた。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 市民参加型のイベントは中止となったが、その代替事業として計画外のパネル展を実施し、市民へ向けて、生物多様性の重要性を発信することができた。その他にも、横浜ゴム平塚製造所主催のイベント等に参加し、受益者へ、生物多様性保全のPRができた。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	団体の持つ専門的な知識が、啓発事業や調査結果を通して還元されることで、自らの住むまちの自然環境を考え、活動するきっかけを持つことができた。
団体のメリット	協議会メンバーの各団体の活動や考え方の相互理解が進み、活動の活性化が図れた。また、調査結果を紹介するパンフレットやイベントの紹介等を、市ウェブに掲載することで、活動の周知につながった。
市のメリット	これまでの長年の活動の実績がある各団体と一緒に生物多様性保全に取り組むことで、市アクションプラン策定に向けた調査結果の活用などの下地を作れただけでなく、自然環境や生物に対する、向き合い方も学ぶことができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

協働事業最終年度に向け、日常的な情報伝達手段であるメールを全員で共有するなど、情報共有の徹底を図りたいと考えている。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)
 行政が単独で実施
 その他 (

- 休止または終了
 団体が単独で実施

)

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

協働事業としては令和3年度で終了するが、生物多様性の考え方を広めるために、今後も市が主催するイベント等への協力を依頼したいと考える。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	ひらつか生物多様性推進協議会	担当課名	環境部 環境保全課
事 業 名	平塚市生物多様性保全推進事業		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

お互いに事業の目的を共有しながら事業を進めることができたと考える。事業の核となる生物調査や啓発事業の企画は団体が主となり実施し、担当課はそのサポートをするという役割分担に沿って、お互いに対等な立場を尊重しながら、十分な協議の下に事業を展開することができたと考える。また、団体と担当課がそれぞれ単独で行うよりも、事業の波及効果が高まった。役割分担や対等な立場の点で評価の違いがあったが、それぞれの補足を確認しあい、お互いの見解に相違がないことを確認した。

十分な協議については、対面形式での会議が開催できない代わりに、オンライン会議を取り入れ補うことができた点を、お互いに評価した。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

調査活動は、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部制限を受けたが、水域の四つのエリアでの全ての班による調査や特定の班によるオプション調査も実施でき、概ね目標を達成できたと考える。

市民参加型の啓発事業は中止となったが、計画外のパネル展の実施や、オンラインでのパネルディスカッションに参加するなど、社会情勢に即した啓発活動を行うことができたと考える。

調査活動と啓発事業の2本柱で進めていくという事業の方向性が適切なことをお互いに確認した。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

身近な自然環境と、そこに住む生物の多様性を理解し、自らで活動するきっかけが提供されたという市民のメリット、メンバー同士の相互理解が深まり、活動の活性化が図られたという団体のメリット、協働相手である団体の経験や知識を活かして、アクションプラン策定への基盤を作ることができたという市のメリットにおいて、お互いの自己評価は一致していると確認できた。

(4) その他、課題やその改善方法など

本協働事業の目標である自然環境評価書を作成するため、最終年では考え方やスケジュールの共有をさらに強化していきたいと考えている。

令和2年度当初は、メンバーが集まったの会議ができない状況が大きな課題となっていたが、オンライン会議を活用するなど、社会情勢に応じて対応することができた。今後も、連絡調整、調整結果の共有の手段をより工夫し、双方ができる限りの努力を続け、目標達成を目指す話し合った。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（ 提案型 提案型以外） 休止または終了
 行政が単独で実施 団体が単独で実施
 その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

協働事業としては令和3年度で終了するが、生物多様性の考え方を広めるために、今後も市が主催するイベント等への協力を依頼したいと考える。

令和2年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長

団 体 名 ひらつか着地型観光推進委員会

団体代表者 前原 洋子

事業担当課名 商業観光課

事業担当課長 仲手川 直

年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	着地型観光プログラムの開発とイベントの周知及び実施		
事業開始年度	令和2年	提案型	<input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	1,340,654 円	内 訳	市の支出 1,198,354 円 ----- 団体の支出等 142,300 円
事業の概要	<p>地域の資源を活用して、地域主体、地域発信で行う新しい形の観光である着地型観光のプログラム開発と情報発信及び実施を行うことにより、平塚の新しいイメージやブランドを創り出していき、関係人口を増加させます。</p> <p>初年度となる令和2年度は、まちまるごと学び舎構想の第一弾として平塚の自然を扱うホスト（訪問先）とともに5つの着地型観光プログラムを開発し、ひらつかまちまるごと自然環境学舎と銘打って告知を行い、実施しました。</p>		
具体的な実施内容	<p>実施した着地型観光プログラム</p> <p>① カラダで地球を感じよう。オーガニック畑で農業体験。11月23日 ホスト：株式会社いかす 参加者：26名（うち45%市外、平塚初来訪20%）</p> <p>② エシカルローズでジャムづくり 11月28日 ホスト：きいろいおうち farm 参加者：15名（うち20%市外、平塚初来訪なし）</p> <p>③ 里山探検隊 吉沢でアニマルトラッキング 12月5日 ホスト：NPO 暮らし・つながる森里川海 【雨天中止】</p> <p>④ 「ゆるぎの里きさわ」で里山の魅力を感じる焼き芋体験 12月13日 ホスト：湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会 参加者：26名（うち14%市外、平塚初来訪14%）</p> <p>⑤ 平塚新港で波力発電&相模湾周遊 12月19日 ホスト：平塚海洋エネルギー研究会、平塚市漁業協同組合 参加者：17名（うち33%市外、平塚初来訪なし）</p> <p>のべ84名にご参加いただき、うち100%の方に満足いただけました。 10名の方に平塚に初来訪いただき、関係人口を増やすことができました。 39名の子供達に平塚の魅力をよい思い出として持ち帰っていただきました。</p>		

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

令和2年度実施協働事業 決算報告書

① 収 入	項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
	市の支出	1,699,232円	1,699,232円	0円	
	団体の支出	30,000円	0円	-30,000円	
	事業収入	600,000円	142,300円	-457,700円	新型コロナウイルスの影響によりプログラムの開催を削減した結果、収入が減少するものです。
	収入合計	A 2,329,232円	B 1,841,532円	B-A -487,700円	
	項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
	事務員人件費	808,800円 (808,800円)	780,983円 (780,983円)	-27,817円	新型コロナウイルスの影響にかかわらず、必要になる事務作業として実行した結果、当初予定に近い決算となりました。
	法定福利費	113,232円 (113,232円)	44,830円 (44,830円)	-68,402円	当初予定していた、事務員の契約を行わず、団体内での作業分担としたため、予算を下回りました。
	プログラム作成者人件費	240,000円 (120,000円)	97,681円 (97,681円)	-142,319円	当初予定していたプログラムの数を半分に減らしましたので、予算に比べ、50%程度の決算となりました。
	事務員交通費	100,000円 (100,000円)	0円 (0円)	-100,000円	事務員の契約を行わなかったため、決算の計上はありません。
	有償ボランティア	30,000円 (30,000円)	8,000円 (8,000円)	-22,000円	初年度であることを含め、有償ボランティアではなく団体の会員が当日作業を行うことが多かったため、予算を下回りました。
	プログラム実施者謝礼	480,000円 (0円)	127,700円 (127,700円)	-352,300円	<u>理由</u> プログラムの開催を削減したこと及び単価設定が予算計上時を下回ったため決算額も予算を下回りました。 <u>支出内容</u> 4プログラムに対して総額127,700円支出しております。
システム使用料	49,200円 (49,200円)	11,231円 (11,231円)	-37,969円	プログラムの開催を削減したこと及び単価設定が予算計上時を下回ったため決算額も予算を下回りました。	

② 支 出	備品購入費	200,000円 (200,000円)	166,383円 (36,966円)	-33,617円	理由 パソコン、プリンターなど予算を下回る価格を選定できたため、決算額が下回りました。 支出内容 PC102,080円その他、プリンター、ウェブマイクを購入
	通信費	75,000円 (75,000円)	28,066円 (28,066円)	-46,934円	理由 新型コロナウイルスの影響によりプログラムの開催を下半期に集中させたため、携帯電話の契約時期が短くなり、予算を下回りました。 支出内容 レンタル携帯電話約2か月（通話料、機種代込み）
	交通費	60,000円 (60,000円)	25,000円 (25,000円)	-35,000円	理由 プログラムの開催を削減したため、プログラムの実施者との調整を含め交通費が予算を下回りました。 支出内容 自家用車を利用した場合に1000円／回計上
	広告費	123,000円 (123,000円)	17,897円 (17,897円)	-105,103円	理由 当初予定していたプログラムごとのチラシ作成を5プログラムまとめたチラシ作成としたため決算額が減りました。 支出内容 周知用チラシ2000部等
	事務費	50,000円 (20,000円)	32,883円 (20,000円)	-17,117円	
	収入合計	C 2,329,232円 (1,699,232円)	D 1,340,654円 (1,198,354円)	D-C -988,578円	
③	収支決算額 B 1,841,532 円 - D 1,340,654 円 = 500,878 円	【備考】市の支出1,699,232 - 支出合計1,340,654 + 事業収入142,300円 = 残余金500,878円は、市へ戻入する			

※支出額の（ ）内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	ひらつか着地型観光推進委員会 商業観光課	■団体 □行政
事業名	着地型観光プログラムの開発とイベントの周知及び実施	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
① 事業の「目的は共有」できましたか。	4	当初提案したひらつかの魅力発信やブランディングに加え、週次のミーティングの中で参加者に付加価値を得られるような事業のコンセプト設定を検討し、「ひらつかまちなると学び舎構想」まで落とし込むことができました。 今後のプログラムの検討にあたり、細部の調整は必要であるものの、大枠としての目的の共有はできたのではないかと考えます。
② 事業での「役割分担」は適正でしたか。	5	ミーティングで協議を重ね、それぞれの得意分野や期待される部分を話し合い、大きく分けて、次の役割分担としました。 団体：事業の企画・運営 平塚市：事業の広報 結果として、多くの参加者を獲得につながったと考えます。
③ 「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	市と団体の考えを共有するミーティングを週1回もしくは2週に1回設け、方向性などの理解を深めながら事業を進めました。 結果として、十分な協議を行うことができたと考えます。
④ 「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	プログラムの検討では、平塚市、団体ともにそれぞれの立場で意見を出し合い、活発に意見を交換することができました。 時には逆方向の意見が出ることもありましたが、その意見を踏まえたすり合わせを進め、プログラムを完成することができました。
⑤ それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	平塚市の協力無くして、団体だけで実施した場合、今回のような広報活動を行うことはできませんでした。 多数の参加者を獲得できたのは、相互効果があったと判断できます。 また事業を実施したことにより、市内事業者より自発的な協力表明も届いており、波及効果があったと考えます。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → B : 「相互」評価シート → C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	3	新型コロナウイルスの影響により当初計画した10プログラムから5プログラムに縮小したため、目標値は達成できませんでしたが、半分の開催数としたため、目標値も半分になったと仮定すると、概ね目標を達成できたと考えます。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	3	市単独で行った場合に得られない参加者を得られた点では、費用対効果があったと考えますが、事業費で考えると約170万円の市支出に対して、獲得した参加者の総数は84名であり、おおよそ参加者一人当たりの単価は2万円程度となります。 1年目ということもあり、プログラムの検討や事務に多くの時間を要しましたが、積み上げたノウハウや運営方法を調整していくことが課題と考えます。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	5	のべ84名（応募約100名）にご参加いただき、全ての方に満足いただけました。 10名の方に平塚に初来訪いただき、関係人口を増やすことができました。 39名の子供達に平塚の魅力をよい思い出として持ち帰っていただきました。

(3) 実施したメリット

市民の メリット	知られざる平塚の魅力を発見することができたこと。
団体の メリット	①協働無くしてはたどり着くことのできなかつたユーザーにアプローチすることができたこと。
市の メリット	①明確なコンセプトメイキングができたこと。 ②市だけでは発掘できなかつた地域資源に光を当てることができたこと。

(4) その他、課題やその改善方法など

特になし

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（ 提案型 提案型以外）
 休止または終了
 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
 その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

--

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	商業観光課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	着地型観光プログラムの開発とイベントの周知及び実施	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	4	市民活動センターでの打ち合わせのほか、ZOOMでのオンライン会議なども頻繁に行い、目的の共有を図った。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	4	それぞれの強みを生かした、役割分担を行うことができた。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	4	打ち合わせを頻繁に行い、フェイスブックやLINEグループを活用して十分に協議ができた。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	4	対等な立場で意見交換をし、事業の実施を行うことができた。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	4	市単独ではできない方法で観光プログラムの実施を行うことができた。(クレジットカード決済、市内外への幅広い周知、参加者へのおもてなし)

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	コロナ禍で計画の半分の事業実施となったが、目的・目標はおおむね達成することができた。5つの観光プログラムを野外活動というカテゴリでまとめて新しい魅せ方で情報発信をすることで、新しい平塚のイメージを作ることができた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	4	ホームページやチラシの質、受付事務、当日の対応等を考えると経費に見合うサービスは十分に得られた。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	5	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など参加者アンケートで満足度がとても高かった。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	これまでにない新しい観光プログラムに参加し、平塚の新たな魅力に気づくことができた。
団体のメリット	さまざまな活動を行っている会員同士がこの事業をとおして平塚の現状や課題を深く認識できた。観光プログラムの実施者と調整する中で、新しい事業を行うにあたっての留意事項などを理解することができた。
市のメリット	これまでにない観光プログラムを企画することができ、当日の運営など団体と協力して行うことができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

・業務量に対して、団体側のマンパワーの不足→新規会員や協力団体の募集を支援する。

(5) 今後の具体的な展開

今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)

行政が単独で実施

その他 ()

休止または終了

団体が単独で実施

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

令和3・4年度も行政提案型協働事業として継続して実施を行う。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団体名	ひらつか着地型観光推進委員会	担当課名	商業観光課
事業名	着地型観光プログラムの開発とイベントの周知及び実施		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

- ・ ほぼ、毎週の打ち合わせにより、目的の共有、実施内容など十分に協議ができた。
- ・ 毎回の打ち合わせは、活発な意見交換をすることができた。
- ・ 役割分担を適正に行うことができた。
- ・ 広報活動で相互に協力ができた。
- ・ 波及効果として、市内の事業者から今後協力をしたいという申し出があった。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

- ・ コロナ禍で計画を変更せざるを得なかったが、その中で参加者の満足度が高く実施できたのはよかった。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

- ・市民が、新しい平塚の魅力に気づけたのはよかった。
- ・市だけでは、見つけることができなかった観光資源を生かした。
- ・コロナ禍で、マイクロツーリズムという考えが広がりつつある中で、ちょうど良いタイミングで実施することができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

特になし

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (■提案型 □提案型以外) □休止または終了
- 行政が単独で実施 □団体が単独で実施
- その他 ()

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

今後、協賛企業等を集める努力をし、参加費や参加人数などの設定についても十分に検討を行っていく。